

メモリアル☆満載のシリーズ 最後は西島義則が締めた!



桐生



西島義則



村松将平

10/15~20 第6回日本一しょうゆ杯

1 ① 西島 義則 (62) 広島	① 17 161111121
2 ② 山田 雄太 (42) 静岡	② 14 231231161
3 ④ 岩瀬 裕亮 (36) 愛知	④ 09 351131332
4 ⑤ 刑部亜里紗 (27) 静岡	⑤ 10 341223332
5 ⑥ 大澤 普司 (50) 群馬	⑥ 10 114631512
6 ③ 永井 源 (44) 愛知	③ 12 113232211
①② 380円(1) ①②④ 750円(1) 逃げ	

〔10月15日〕第6回日本一しょうゆ杯〕当地7年3か月ぶりの西島義則が奮闘した。初日の下りム戦こそ6着に敗れたが、他の予選はまくり3本、逃げ1本、抜き1本の全勝でトップ通過。エンジンは数字以上の出方で、行き足を中心に仕上がっていた。準優は1M失速しながら結果的には逃げ、優勝も相手に全く仕事をさせずに押し切った。西島は昨年6月の宮島GⅢマスターズリーグ以来で通算99回目、桐生では1993年6月以来、31年4か月ぶり2回目のV。来春4月、当地で開催されるPGIマスターズチャンピオンに向けて、いいイメージ作りができただろう。

また、当節3日目はメモリアルが三つもあった。まずは寺島美里が4R1着で通算100勝となり、「うれしい。9年目にして、やっとですね。まだまだ発展途上なので、全力でゴールすることだけを考えます」と笑顔。次いで7R、静岡133期の村松将平が4コースまくり差して1着となり、デビュー153戦目で初勝利を挙げた。「今期中に決めたいと思っていました。すごうれしい。でも、時間が掛かっちゃったので、恥ずかしい思いとの半々です。これで(師匠の藤田)童弘さんにご飯をこちそうしてもらえらる。初1着が1コースならすき家、2ジョイフル、3さわやか、4すしざんまい、5、6は鉄板焼と言われていたので、お寿司ですね(笑)。次の目標は予選突破、準優、優勝、まずは準優に乗りたい。来期(11月)もダッシュで行こうと思っています」。最後は10R、山崎哲司が1着で「全然、意識していなかった」という通算1500勝を達成した。村松は静岡の先輩たちに囲まれて水神祭、レースが終わった寺島も駆けつけて一緒にダイブした。

(スポーツ報知・佐々木伸)

戸田



地元で決めた! 中野希一がデビュー初優勝



中野希一

10/2~5 戸田巧者No.1決定戦・第6回埼玉新聞社杯

1 ① 浜先 真範 (31) 広島	① 10 152311
2 ③ 上條 嘉嗣 (34) 大阪	③ 12 312141
3 ⑤ 栗城 匠 (29) 東京	④ 13 13124
4 ② 桐生 順平 (37) 埼玉	② 20 225111
5 ⑥ 上村 純一 (44) 群馬	⑥ 10 52211
6 ④ 尾嶋 一広 (37) 兵庫	⑤ 09 431131
①③ 620円(3) ①③⑤ 3980円(13) 逃げ	

10/8~13 スーパーJLC杯戸田ルーキーシリーズ第15戦

1 ④ 中野 希一 (25) 埼玉	④ 13 21212122
2 ⑤ 前原 大道 (28) 岡山	⑤ 24 223115212
3 ① 松本 純平 (29) 埼玉	① 16 124222161
4 ③ 木谷 賢太 (28) 香川	③ 20 353335111
5 ⑥ 飛田 江己 (23) 埼玉	⑥ 21 144533212
6 ② 宮脇 遼太 (26) 福岡	② 20 63222341
④⑤ 2210円(7) ④⑤① 5450円(23) 抜き	

10月2日からは4日間の短期戦。1か月ぶりの開催となったが、エース桐生順平の参戦で場内は盛り上がりを見せた。ただ、桐生は「体感が良くない。お盆のときもそうだったけど、このエンジンに対応できていない」と、調整に苦勞。予選は6戦3勝とまとめ、優出には成功したが、仕上がりは納得度はやや低めだった。この桐生を上回ったのが浜先真範。こちらも予選は6戦3勝。得点率で上回り、優勝戦の1号艇を手に入れた。プレッシャーのかかる優勝戦となった浜先だが、出足、行き足、回り足の良さを生かして、コンマ10の好スタートからイン完封で優勝。昨年7月の三国以来、通算6度目のVを飾った。桐生は仕掛け遅れて万事休す…。道中で追い上げを見せるが4着まで、舟券には絡めなかった。

続いて10月8日からは「ルーキーシリーズ第15戦」。F事故が乱発する流れとなり、初日12Rでは主力の中島秀治、溝口海義也が脱落。3日目には節イチ郎もF。主力選手が次々に脱落する流れのなか、地元の中野希一は出足型の調整で予選を6戦3勝とまとめ、首位通過を決めた。準優勝では2着に敗れ、優勝戦は4号艇となってしまうが、ここで「4カドだし伸び一撃のペラで行きたい。お盆のときに先輩の島田賢人さんが優勝したときのゲージがあるので、それで臨みたい」と、調整を一緒にシフトチェンジ。この調整が見事にはまる結果となり、大激戦を制する形で初優勝を飾った。まずは「A1級に上がるのが目標」と話したが、のびしろは十分に感じられるだけに、今後の成長を期待したい。一方、松本純平は絶対好枠だったが3着に終わった。19度目の優出だったが、今回も初Vは叶わなかった。(ガイド・長谷川)



先輩サマサマのチルト2度 木下大將が約3年ぶりの優勝

9/21~26 第24回スカットさわやか杯

1	①	木下 大將 (39) 福岡	①	06	31211
2	②	柴田 大輔 (42) 福岡	②	08	12511
3	③	一色 凌雅 (25) 愛知	③	07	13131
4	④	浅見 宗孝 (51) 埼玉	④	12	24122
5	⑥	田路 朋史 (40) 兵庫	⑥	14	2322
6	⑤	小林 泰 (39) 東京	⑤	16	23214
①② 370円(1) ①②③ 970円(1) 抜き					

9/28~10/3 スーパーJLC杯ルーキーシリーズ第14戦

1	①	飛田 江己 (23) 埼玉	①	07	31211111
2	②	原田才一郎 (27) 福岡	②	14	12234151
3	④	上原 峻 (29) 東京	④	17	52214212
4	⑤	川原 祐明 (29) 香川	⑤	21	123332323
5	③	石渡翔一郎 (21) 東京	③	12	11414232
6	⑥	櫻井 優 (26) 埼玉	⑥	22	31314643
①② 300円(1) ①②④ 1190円(5) 逃げ					

10/7~11 第48回報知新聞社杯

1	④	秋山 直之 (45) 群馬	④	10	3221
2	⑤	若林 将 (40) 東京	⑤	14	21133
3	①	片橋 幸貴 (36) 滋賀	①	09	22211
4	⑥	西島 義則 (62) 広島	⑥	11	24132
5	③	井上 一輝 (30) 大阪	③	21	32122
6	②	清水 敦揮 (43) 岡山	②	15	21113
④⑤ 3200円(10) ④⑤① 8700円(28) 抜き					

9月21日からの一般戦は、開催予定日から2日間の順延を経てのスタート。ここは木下大將が、前操の中辻崇人のチルト2度のVペラを引き継ぎ、何と中辻に続いてオールチルト2度での戦い。そして、こちらも最後はチルト2度でイン逃げV。約3年ぶりの優勝で「最近が良くなかったから本当に嬉しい。中辻さんには電話します(笑)」と笑顔満面だった。

9月28日からのルーキーシリーズは飛田江己が、近況ひと息だったエース23号機の力を再覚醒させてイン逃げ優勝。初優勝も22年暮れの当地だった飛田は、これが自身2度目の優勝。「師匠の有賀達也さんについて、メンタル面で強くなれたから」と優勝後は師匠への感謝の言葉を口にしている。

10月7日からの一般戦は秋山直之が4コースからまくり攻勢。5コース若林将のまくり差しを許す1Mだったが、2Mで

差し返しに成功して優勝を遂げる。「何度も試運転をして、今節で一番納得できる仕上がりでした」と会心の調整とレースで江戸川V5を達成した。

10月14日からのGⅢオールレディーズ戦は3日目終了時点で名手・寺田千恵が得点率トップに立っていたが、17日に燃料保管庫で火災が発生、そのため4日目以降が中止打ち切り。大変残念な事件となってしまうが、火災は夕方8時半頃と早い時間でもあり、選手はまだレース場から離れた宿舎に待機中。観客席からは火災位置が遠かったこともあり、早朝前売りのファンの方にも、従業員の方にも怪我をされた方がいなかったのは本当に不幸中の幸いだ。原稿執筆時点では、火災原因や本場レース再開(外向け発売場は20日から再開)の予定日は不明。一日も早い完全復旧と、レース再開が待たれる状態だ。

(野添)

絶好調・19号機を手に 天野友和が万舟V!



9/23~28 にっぽん未来プロジェクト競走in平和島

1	⑤	天野 友和 (47) 愛知	⑤	08	116215112
2	①	今泉 友吾 (34) 東京	①	15	111222331
3	③	木谷 賢太 (28) 香川	③	17	211441121
4	②	田頭 実 (57) 福岡	②	10	122161111
5	⑥	峰重 侑治 (35) 岡山	⑥	15	131421522
6	④	前田 聖文 (36) 愛知	④	07	114312342
⑤① 4540円(14) ⑤①③ 18870円(52) まくり差し					

10/2~7 第69回日刊スポーツ旗~平和島マスターズ~

1	②	北村 征嗣 (45) 大阪	②	18	123312131
2	⑤	富山 弘幸 (66) 大阪	⑤	28	323311112
3	①	山田 康二 (36) 佐賀	①	15	124113151
4	④	松尾 昂明 (39) 福岡	④	17	222211112
5	③	鈴谷 一平 (30) 兵庫	③	18	11151541
6	⑥	後藤 翔之 (38) 東京	⑥	26	131414342
②⑤ 8440円(21) ②⑤① 18420円(56) 差し					

10/11~16 第62回東京中日スポーツ杯 第37回東京新聞盃

1	④	今井 貴士 (40) 福岡	④	01	242222122
2	①	前田 将太 (36) 福岡	①	08	114111111
3	②	宮崎 奨 (39) 香川	②	10	251212151
4	⑤	山ノ内雅人 (33) 福岡	⑤	04	35111332
5	③	藤生 雄人 (50) 群馬	③	08	212133241
6	⑥	田路 朋史 (40) 兵庫	⑥	09	12323522
④① 1900円(6) ④①② 7580円(22) 抜き					

9月23日初日の特別競走『にっぽん未来プロジェクト競走in平和島』は曇りや雨の日が多く向かい風も吹いたことからイン受難の傾向。1枠勢の勝利は3日目、2枠、4日目は3つに止まり中穴、大穴が多く提供された。準優こそ1枠勢がそろって逃げを決め、シリーズの好調組が優勝戦の好枠寄りを占めることになったが、最後は再び波乱の結末へ。V枠の今泉友吾はここを勝てば年間V6になり来年のSGクラシックへの出場権利を手元に引き寄せることができず、その行く手を絶好調エンジン19号機の使い手・天野友和が阻み、5コースから力強く伸びてまくり差しに成功。好配当シリーズらしく、最後まで万穴でのフィナーレになった。

19号機的好調は、続く『第69回日刊スポーツ旗~平和島マスターズ~』でも継続され、天野からそれを受け継いだ松尾昂明が抜群のスリット足を誇示。4戦目までオール2着と堅走した後、5戦から4連勝と本格化。しかし、準優では逃げ切ることができず2着に惜敗して、最後は4枠。これで、V枠を手にした山田康二だったが、優勝戦では握った鈴谷一平と競り合い、北村征嗣の2コース差しを許して3着まで。平和島初V達成はならなかった。

10月11日初日の『東京中日スポーツ杯』でも19号機・田路朋史は伸びが抜群だったが、1着を量産するほどの活躍を見せることはできず、優勝戦では6枠に。一方、前田将太は5日目までに全コースから勝利を挙げるといふ無双状態に突入し、9戦8勝という戦果を残してV枠へ。ところが、優勝戦では今井貴士がカドからコンマ01という驚異の全速スタートを決めてまくり敢行。2マークでも冷静にさばいて優勝。前田は敗れ、V戦1枠勢の連敗が続くことになった。

(ガイド・長船)

9/18~23 第31回神奈川新聞社賞

1	④	佐藤隆太郎 (30)	東京	④	08	134111132
2	③	加藤 政彦 (40)	東京	③	20	422433231
3	⑤	秋元 哲 (35)	埼玉	⑤	16	421251122
4	①	上村 純一 (44)	群馬	①	17	233112221
5	⑥	松村 康太 (41)	福井	⑥	19	415123532
6	②	杉山 裕也 (39)	愛知	②	13	441411121
④③ 3190円(11) ④③⑤ 17390円(51) まくり						

9/28~10/1 第4回内山信二杯

1	⑤	渡邊 雄朗 (38)	東京	⑤	09	211452
2	④	石塚 久也 (43)	埼玉	④	08	332321
3	⑥	尾上 雅也 (29)	埼玉	⑥	11	561122
4	②	谷川 祐一 (42)	滋賀	②	19	12321
5	③	平田健之佑 (37)	三重	③	15	22311
6	①	藤山 翔大 (33)	大阪	①	23	14111
⑤④ 4180円(13) ⑤④⑥ 16890円(46) まくり差し						

10/9~14 BOATBOY CUP

1	①	和田 拓也 (34)	兵庫	①	10	341113121
2	④	廣瀬 将亨 (45)	兵庫	④	12	121531222
3	③	井上 恵一 (55)	福岡	③	18	25416121
4	②	小山 勉 (38)	埼玉	②	18	341213151
5	⑤	平尾 崇典 (51)	岡山	⑤	21	411315112
6	⑥	亀山 雅幸 (41)	群馬	⑥	25	111332532
①④ 560円(3) ①④③ 3830円(14) 逃げ						

10/17~21 第19回日刊ゲンダイ杯

1	①	吉川 喜継 (43)	滋賀	①	09	32122121
2	⑤	須藤 隆雄 (49)	群馬	④	12	1135432
3	④	石川 真二 (54)	福岡	③	16	16421142
4	③	金山 立樹 (30)	東京	⑤	18	1333311
5	⑥	上野 秀和 (41)	福岡	⑥	18	623222
6	②	山本 修一 (44)	岡山	②	09	2321331
①⑤ 2030円(6) ①⑤④ 7730円(26) 逃げ						

Vラッシュが止まらない 佐藤隆太郎が今年7度目の美酒



多摩川

28日からの4日間シリーズ「第4回内山信二杯」優勝戦1号艇は藤山翔大。超抜の伸びを武器に5戦4勝の準完全Vベースだった。しかし、優勝戦で藤山はコンマ23のS立ち遅れ。それに対し、4カドからしつかり0台を決めてきた石塚久也が3コース平田健之佑の抵抗を振り切りまくった。だが、1Mぼっかり空いたところを地元の渡邊雄朗がまくり差しに入ってきた。バックは石塚と渡邊がガリガリや

薄暮開催から通常開催に戻った9月18日が初日の「第31回神奈川新聞社賞」は地元の佐藤隆太郎が優勝した。4コースカドからコンマ08の快ショットを放つと内3艇をのみ込んだ。バックでは5コースからまくり差ししてきた秋元哲があとわずかのところまで詰め寄ったが、2Mで佐藤が全速ターンで引き離し、今年7回目の優勝を達成。来年のクラシック出場はほぼ手に入った。

21日にファイナルを迎えた「第19回日刊ゲンダイ杯」は1号艇を手にした吉川喜継が当地初優勝を決めた。ピット離れで金山立樹が遅れ進入は124・536。カドから須藤隆雄が舟を伸ばし、まくり差しを入れてきたが、インから先に回った吉川がバックで突き放した。(トーチチュウ・白川)

10月9日からは6日間開催がスタート。予選3日目までは亀山雅幸、平尾崇典が得点上位争いをしていったが、両者4日目に大きな着を取り後退。変わって和田拓也が予選1位通過を決めた。準優勝も逃げた和田は優勝戦の1枠を獲得。ファイナルでは2、3コースがSでへこみ、廣瀬将亨が仕掛けてきたが、まくり切るまでには至らず、和田が全速ターンで押し切った。

涙君湖



F2も何のその！ 里岡右貴が突き抜けた！

「GIII SUZUKIスピードカップ」山口剛、宮地元輝をはじめとして、SGやGIでもおなじみのメンバーが多く顔をそろえた。これらの実力者が順当にポイント積み上げるものと思いきや、予選は波乱の連続。初日の6本を皮切りに、4日間で3連単万舟が14本も飛び出した。それもこれも主力どころが軒並み平凡モーターにてこずったことが大きかった。特に山口は4号機に対して「記念だった(連勝式を)一本も取れないと思います」と連日の嘆き節。予選トップ通過を決めた宮地も、かりで「トップになるような足じゃない。良く見て中堅」とシビアな評価にとどまった。それでも、試行錯誤のペラ調整を繰り返して何とか伸びは納得のいくレベルに。優勝戦はピット離れで4枠栗城匠が飛び出したが、インを死守。こん身の先マイで今年4度目のV。さらに全グレード制覇を果たした。

「日本財団会長杯」節一パワーは細川裕子の28号機。GI71周年で峰竜太が駆った代物だ。ノーハンマーで臨むと、まあ出てるの何の。特に出入関係が強力で「すこい」という言葉が何度となく飛び出した。予選は3位通過も、準優11Rで横澤剛治が5着、12Rで樋口亮が2着と1枠勢が勝てなかったことでファイナル1枠を手中に。ただ、優勝戦は「スタートが届いてない」という不安の中。スロー勢は3人いずれもコンマ20台と仕掛け遅れた。1Mは4カドから野中一平がフルダッシュで攻めたものの、ターンが流れてしまい、5コースから差し場をとらえた里岡右貴が突き抜けて1着。フライング2本持ちに加えて事故点も高く、満身創痍の身ではあったが、最高の結果で終了。「無事故で走れたのがうれしかったです」と胸をなで下ろした姿が印象的だった。(MOCHI)



里岡右貴

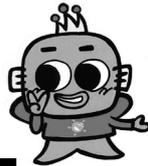
9/18~23 SUZUKIスピードカップ

1	①	宮地 元輝 (37)	佐賀	①	09	252211131
2	④	栗城 匠 (29)	東京	③	09	111234522
3	②	下條雄太郎 (38)	長崎	④	11	423112111
4	⑤	金児 隆太 (37)	群馬	⑤	09	44113122
5	⑥	篠原 飛翔 (25)	福岡	⑥	11	125314312
6	③	立間 充宏 (49)	岡山	②	09	141161251
①④ 620円(3) ①④② 1350円(5) 逃げ						

10/12~17 日本財団会長杯

1	⑤	里岡 右貴 (38)	福岡	⑤	16	212423312
2	④	野中 一平 (30)	愛知	④	13	426111132
3	③	樋口 亮 (49)	長崎	③	27	223211232
4	⑥	平田健之佑 (37)	三重	⑥	29	323422223
5	①	細川 裕子 (42)	愛知	①	27	111432221
6	②	尾崎 雄二 (39)	長崎	②	25	114142451
⑤④ 3460円(13) ⑤④③ 25220円(60) まくり差し						

蒲郡



長欠明けの秋山直之 Vロードを駆け抜けた!

9/15~21 きょうも、あなたと名鉄バス杯争奪戦

1	①	秋山 直之 (45) 群馬	①	08	1222112131
2	②	藤岡 俊介 (41) 兵庫	②	07	11141315151
3	③	高倉 和士 (33) 福岡	③	06	4312141131
4	④	福島 勇樹 (45) 東京	④	12	26211245242
5	⑤	宇野 博之 (44) 愛知	⑤	11	1331416222
6	⑥	小野 達哉 (38) 大阪	⑥	12	15162611432
①② 320円(2) ①②③ 660円(2) 逃げ					

9/24~28 中京スポーツ杯争奪 蒲郡ボートキング決定戦

1	①	吉田 拓郎 (42) 岡山	①	05	1122112121
2	②	坂元 浩仁 (38) 愛知	②	10	231113141
3	⑤	谷野 謙志 (40) 静岡	⑤	10	15231322
4	③	吉川 喜継 (43) 滋賀	③	12	3132431
5	⑥	杉山 貴博 (44) 東京	⑥	16	2251622
6	④	木村 仁紀 (32) 滋賀	④	14	3112632
①② 260円(1) ①②⑤ 930円(2) 逃げ					

10/1~5 幸田町長杯争奪 秋の美味 筆柿レース

1	①	上平 真二 (50) 広島	①	12	32311121
2	②	河村 了 (40) 愛知	②	11	23213121
3	③	吉田 裕平 (27) 愛知	③	14	51221141
4	⑤	村松 修二 (33) 広島	⑥	15	6231222
5	④	三浦 裕貴 (35) 東京	⑤	14	3422262
6	⑥	高野 哲史 (35) 兵庫	④	12	45152452
①② 320円(2) ①②③ 590円(1) 逃げ					

10/12~16 サッポロビール杯争奪戦

1	①	赤岩 善生 (48) 愛知	①	07	21221131
2	④	尾嶋 一広 (37) 兵庫	④	08	1161132
3	⑤	金子 賢志 (33) 群馬	⑤	11	1432112
4	③	古澤 光紀 (36) 福岡	③	11	3112531
5	⑥	上條 嘉嗣 (34) 大阪	⑥	12	26312622
6	②	渡辺 浩司 (40) 福岡	②	11	22112451
①④ 420円(2) ①④⑤ 2100円(9) 逃げ					

9月24日からの蒲郡ボートキング決定戦は、初日連勝の吉田拓郎が、勢いそのままにシリーズリーダーの座をゲット。持ち前の速攻力を武器に優勝を飾った。かつての蒲郡のイメージを尋ねられると「24場で一番嫌い」と話していたが、23年はGI69周年記念、今年も今回の優勝劇と完全に潮目が変わっている。

10月1日からの秋の美味・筆柿レースは、主力陣が力量を存分に発揮したシリーズだった。

9月15日からの7日制は、5日目に進出戦が行われた。SG5冠の原田幸哉は、F2だったこともあり、なかなかリズムを作れなかった。そんな中、連日の猛追ショーで魅了したのが秋山直之。コース不問の絶品ターンで7勝を挙げVロードを駆け抜けた。8月7日から戦列に復帰。「まだスタートラインにも立てていないので、まずはA1級に復帰することが目標です」と前を向いていた。

12日からの5日制は、予選最終日のトップ争いが白熱。渡辺浩司と赤岩善生が得点率と上位着位が並び、最高タイム差で赤岩に軍配が上がった。

準優、優勝戦を気迫の踏み込みで優勝した赤岩は「ホツとしました」と安堵の表情。今期は近年にない絶不調で勝率は6点台半ばまで落としていたが「これだけしか(勝率を)取れていないことは現実だし、そこは受け止めています。でも、諦めていく訳ではないです」と闘志の炎が消えていないことを強調していた。

(スポーツ報知・太田和良)

ドリム戦は2着だった上平真二だが、予選ラスト走を快勝。逆転で首位通過を果たし、優勝戦は地元河村了、吉田裕平を従えてVゴールを決めた。終わってみれば、ドリム戦も優勝戦も上位3選手の顔ぶれは一緒だった。

9/21~24 スポーツニッポンカップ

1	①	佐々木康幸 (51) 静岡	①	09	213221
2	③	松井 友汰 (29) 大阪	③	09	461111
3	②	権藤 俊光 (37) 大阪	②	10	241311
4	④	野村 誠 (38) 群馬	④	13	221122
5	⑤	佐藤 航 (24) 埼玉	⑤	22	122232
6	⑥	松尾 昂明 (39) 福岡	⑥	24	113522
①③ 500円(2) ①③② 1220円(4) 逃げ					

9/27~30 BTS高浜開設6周年記念競走

1	④	下出 卓矢 (37) 福井	④	14	211422
2	⑥	平尾 崇典 (51) 岡山	⑥	28	324162
3	⑤	鳥居塚孝博 (49) 群馬	⑤	20	214212
4	③	吉田 俊彦 (46) 兵庫	③	19	241241
5	①	松尾 拓 (36) 三重	①	15	111411
6	②	深井 利寿 (50) 滋賀	②	21	262111
④⑥ 2760円(8) ④⑥⑤ 10300円(31) まくり					

10/12~15 市制70周年記念第四回とこなめ山車まつりカップ

1	①	佐々木完太 (28) 山口	①	10	341111
2	③	郷原 章平 (43) 福岡	④	11	311331
3	②	河村 了 (40) 愛知	③	11	313221
4	⑤	松村 康太 (41) 福井	⑥	18	322142
5	⑥	吉田 光 (49) 佐賀	②	12	31242
6	④	濱崎 直矢 (41) 埼玉	⑤	12	551112
①③ 600円(3) ①③② 1390円(5) 逃げ					

10/20~23 デイリースポーツ杯

1	①	前田 聖文 (36) 愛知	①	07	131121
2	③	上村 純一 (44) 群馬	③	06	111561
3	⑥	室田 泰史 (54) 福井	⑥	08	13432
4	⑤	高橋 英之 (50) 東京	⑤	10	321422
5	④	有賀 達也 (39) 埼玉	④	07	124132
6	②	石橋 道友 (42) 長崎	②	17	313321
①③ 540円(3) ①③⑥ 5440円(19) 逃げ					

イン戦の信頼度絶大! 佐々木康幸が今年5度目V



とこなめ

9月24日のスポーツニッポンカップ。ドリム、準優とここ一番はキツチリ勝ってきた佐々木康幸がポールポジションをゲット。優勝戦もトップSを決め、先マイ一気に決着をつけた。松井友汰のまくり差しに、権藤俊光の差しは及ばず。大阪支部両者による2着争いは松井に軍配が挙がった。佐々木は今年5回目のVを飾った。その5回ともがイン戦でのVと勝負所の1枠信頼度は激高だ。

30日のBTS高浜開設6周年記念競走。2連対率29%の低調モーター7号機をパートナーにキレのある走りでもV戦1枠をつかんだ松尾拓。ただ、パワー勝負ではやや分が悪い感じもあつたか。一方で4枠になった下出卓矢は、ピット離れも考えてチルトマイナスながらも目一杯伸びを重視。この差が最後で出たか。インでコマ15のSを決めた松尾に対し、下出は4カドからコマ14の仕掛け。そこから

23日のデイリースポーツ杯。シリーズリーダー前田聖文がV戦1枠を手に地元初Vの大チャンス。最終日は気象条件が大きく変わったが、「1日じっくり時間をかけてペラを合わせられた」と特訓後に納得のコメント。その言葉通り、最後まで力強いイン戦で完封V。上村純一がまくり差しを狙ったが及ばず2着。

(とこなめ情報 土井)

9月15日のとこなめ山車まつりカップ。優勝戦6号艇の吉田光が思い切つて2コースまで動く。佐々木完太は当然イン主張となったが、河村了は3コースへ。カドは5コース濱崎直矢となった。それでも佐々木は深インを克服してコマ10のトップS、そのまま逃げ切り当地連続Vを達成。郷原章平がブイ差しで2着入線。

10月15日のとこなめ山車まつりカップ。優勝戦6号艇の吉田光が思い切つて2コースまで動く。佐々木完太は当然イン主張となったが、河村了は3コースへ。カドは5コース濱崎直矢となった。それでも佐々木は深インを克服してコマ10のトップS、そのまま逃げ切り当地連続Vを達成。郷原章平がブイ差しで2着入線。

の伸びの差は一目瞭然、下出が一気にまくつてV。さばいた平尾崇典が2着と好戦した。

9/23~26 津インクル開設13周年記念レース

1	③	中村 辰也 (36)	長崎	④	10	21521
2	①	上平 真二 (50)	広島	①	24	113222
3	④	河野 主樹 (28)	大阪	⑤	13	31133
4	②	樋口 亮 (49)	長崎	②	19	11224
5	⑤	柴田 光 (52)	群馬	③	36	41124
6	⑥	角谷 健吾 (51)	東京	⑥	28	12631
		③① 1020円(5) ③①④ 3470円(13) まくり				

9/30~10/5 ヴィーナスシリーズ第14戦 BOATBoyCUP

1	④	山下 友貴 (38)	静岡	④	06	41131242
2	⑤	中川 りな (31)	福岡	⑤	12	155231232
3	②	遠藤 エミ (36)	滋賀	②	17	1135112121
4	①	藤原 菜希 (38)	東京	①	11	1223121241
5	③	浜田亜理沙 (36)	埼玉	③	15	2141111421
6	⑥	赤井 睦 (35)	徳島	⑥	15	151134512
		④⑤ 13330円(20) ④⑤② 67390円(73) まくり				

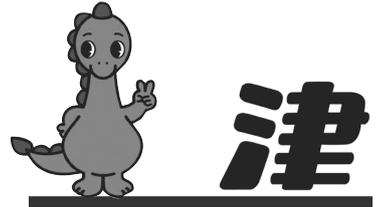
10/9~14 DMM.com杯争奪！パッチこいカップ

1	①	吉田 俊彦 (46)	兵庫	①	07	111213121
2	②	松田大志郎 (36)	福岡	②	09	143112231
3	⑥	中田 元泰 (38)	香川	⑥	12	412252612
4	⑤	淺香 文武 (50)	三重	⑤	09	212236532
5	③	畑 和宏 (52)	広島	③	06	113233331
6	④	竹田 辰也 (40)	山口	④	11	213211412
		①② 200円(1) ①②⑥ 1540円(4) 逃げ				

10/17~22 津PR第3戦ボートレース津交通安全運動

1	①	牧 宏次 (50)	東京	①	15	111313241
2	⑤	岡部 大輝 (28)	東京	⑤	24	322124442
3	③	川原 正明 (50)	福井	③	17	145122451
4	⑥	赤坂 俊輔 (42)	長崎	⑥	26	141423132
5	④	中里 英夫 (56)	群馬	④	19	262512212
6	②	中村 尊 (44)	埼玉	②	13	123211661
		①⑤ 1390円(5) ①⑤③ 4970円(19) 逃げ				

カドから豪快まくり！ 7年2か月ぶり美酒



9月23日から4日間の短期決戦の「津インクル開設13周年記念レース」は、江口晃生が途中帰郷、岩瀬裕亮が予選敗退とドリム組が最終日の6強へ残れないサバイバルとなった。唯一、上平真二が勝ち上がり意地で得点率トップを守った。F2の柴田光が回り込んで3コースを確保。インから上平、樋口亮、柴田、中村辰也、河野主樹、角谷健吾が3対3となりスタート。スロ1勢はダッシュが乗らず、カド中村が一気のまくりを取行。上平は2着へ食い込むことが精一杯だった。中村は2年半ぶりとなる通算4回目の優勝だ。

30日からは「ヴィーナスシリーズ第14戦 BOATBoyCUP」。初日、2日目DRを制した遠藤エミ、浜田亜理沙を抑えて優勝戦1号艇を手にしたのは藤原菜希。優勝戦もインでトップタイのコンマ16を決めたがまさかの遠藤、浜田がへこむ展開。4カドから山下友貴が豪快にまくって、7年2か月ぶりとなる優勝を果たした。

10月9日からは「DMM.com杯争奪！パッチこいカップ」が開幕。今年5Vの吉田俊彦、4Vの松田大志郎のどちらがクラシック出場権へ接近できるかが焦点となったが、優勝戦も吉田が1号艇、松田が2号艇とマッチレースを展開した。吉田がインでトップスタートを放ちそのまま先マイ。松田が差したころにはバック3艇身前にいる圧勝劇となった。松田は2着止まりとなり吉田の6Vが確定。

17日からは「津PR第3戦ボートレース津交通安全運動」。豊田健士郎は減点7も予選首位通過。だが準優で敗れ、V戦1枠は牧宏次へ。牧がエース機パワーで押し切り、4年10か月ぶり、通算21回目の優勝。同時に勝率も戦前の5・99から6・20を越える大幅アップ。A1級復帰も確定的とした。

(中日スポーツ・高橋)



代名詞の3カド戦！ 今垣光太郎が通算118度目V

「道の駅みくに・ふれあいパーク三里浜杯」は地元の中辻博訓に注目が集まるも、予選で公傷により途中帰郷。他の地元勢も苦戦が続いた。初日連勝で勢いに乗った宮崎獎がリズム良く戦い、優勝戦の絶好枠を手にした。他に優出したメンバーは枠順にオール3連対の中山翔太、当地5Vの白水勝也、前節からの連続優出の橋本年光、川田正人、齊藤優の徳島支部の2人だ。迎えた頂上決戦。インからスタートを決めた宮崎が他艇を寄せつけず逃げてV。デビュー19年4か月、57回目の優出にして悲願の初優勝を飾った。

「GIIIマスタースターズリーグ第6戦 三国レジェンドカップ」では、地元の大場、今垣、江口晃生、山本隆幸、山口裕二、表憲一となったが、井口が2コースに入

9/21~25 道の駅みくに・ふれあいパーク三里浜杯

1	①	宮崎 獎 (39)	香川	①	13	11312211
2	②	中山 翔太 (20)	三重	②	21	2133231
3	③	白水 勝也 (51)	福岡	③	21	25412331
4	④	橋本 年光 (49)	兵庫	④	18	1432132
5	⑥	齊藤 優 (42)	徳島	⑥	13	2253222
6	⑤	川田 正人 (43)	徳島	⑤	19	6411142
		①② 290円(2) ①②③ 560円(1) 逃げ				

10/1~6 マスタースターズリーグ第6戦 三国レジェンドカップ

1	②	今垣光太郎 (55)	福井	③	14	1141152111
2	⑤	山口 裕二 (45)	長崎	⑤	17	262321412
3	④	山本 隆幸 (47)	兵庫	④	16	1512351242
4	⑥	表 憲一 (46)	福井	⑥	16	344312312
5	③	江口 晃生 (59)	群馬	②	15	1311251311
6	①	大場 敏 (57)	静岡	①	13	213131251
		②⑤ 1780円(8) ②⑤④ 5000円(20) まくり				

10/13~18 日本MB選手会会長杯 第32回たけなみ人形賞

1	①	船岡洋一郎 (37)	広島	①	07	5211111131
2	④	本多 宏和 (37)	愛知	④	04	26312142
3	②	鈴木 博 (55)	埼玉	②	10	132331251
4	⑤	喜井つかさ (34)	岡山	⑤	06	212542512
5	⑥	中辻 博訓 (50)	福井	⑥	06	6153132412
6	③	秦 英悟 (39)	大阪	③	10	1446111131
		①④ 690円(3) ①④② 2210円(9) 逃げ				

ることで、今垣は宣言通りに3カドを選択。今垣は不良航法の裁定を受けたが通算118度目、地元水面では1年9か月ぶりとなるVを飾った。

男女混合戦の「日本モーターボート選手会会長杯 第32回たけなみ人形賞」では、地元の中辻が前回参戦時のリベンジを果たすべく登場。機力不足に苦しむも何とか優出を果たした。準優3本は1枠逃げ決着。本体整備が当たった船岡洋一郎が優勝戦1号艇。鈴木博と秦英悟が続き、本多宏和が4号艇、女子からは唯一の優出となった喜井つかさ、そして中辻だ。優勝戦は船岡が堂々の逃げを披露。好調ぶりをアピールする今年5度目の優勝を飾った。

(実況アナウンサー・高橋敬亮)

びわこ



中間整備機のパワーを発揮！ 地元・是澤孝宏が11戦9勝V



是澤孝宏

9/21~25 キリンカップ2024

1	①	下河 誉史 (42)	福岡	①	11	1143131
2	④	馬場 剛 (32)	東京	④	11	43413132
3	⑥	三浦 永理 (41)	静岡	⑥	15	21423432
4	③	川島 圭司 (41)	滋賀	③	13	41111321
5	⑤	三浦 敬太 (37)	東京	⑤	18	26131532
6	②	久田 武 (50)	愛知	②	11	3311241
①④ 780円(3) ①④⑥ 3760円(14) 逃げ						

10/6~11 テイリススポーツ杯争奪第39回オールニッポン選抜戦

1	①	是澤 孝宏 (39)	滋賀	①	01	1111113141
2	③	岩瀬 裕亮 (36)	愛知	③	05	3221212121
3	④	妹尾 忠幸 (44)	岡山	④	02	3333222132
4	⑤	森 悠稀 (31)	兵庫	⑤	02	224331412
5	②	柘植 政浩 (43)	滋賀	②	07	1211242131
6	⑥	向所 浩二 (51)	兵庫	⑥	15	425131552
①③ 240円(1) ①③④ 540円(1) 逃げ						

「キリンカップ2024」の最終日は9月25日。3日間の予選ラウンドを首位通過の下河誉史が準優を逃がってファイナルの1号艇をゲットした。手にするのは直前のG1戦で篠崎元志が準Vを飾るなど近況好調な71号機。その機力を完全に仕上げ、強力な出足、回り足を中心にトップ級のパワーを誇る。ただ、2号艇の久田武も出足に關してはかなりのレベル。12年ぶりの地元Vに燃える川島圭司をはじめ、馬場剛、三浦敬太、三浦永理らもV争いは十分の仕上がりだけに侮れない。迎えた優勝戦はインからきっちりSを決めた下河が3コースからまくって出た川島をけん制するように先マイ。川島はオーバーターンとなり、BSに入った時点で下河が一気に先行態勢に持ち込む。下河はデビュー初Vだった約9年ぶり2回目、びわこでは初となるVを飾った。

10月11日は「オールニッポン選抜戦」の最終日。予選を首位通過の地元・是澤孝宏が準優を逃げ切り1着。初日からの6連勝を含め、ここまで10戦8勝と圧倒的な内容でファイナル1号艇に構える。その成績が示す通り、7月の中間整備でエース級に変貌した51号機を駆ってパワーはまさに超抜クラス。最後もライバル勢をインから圧倒するか。同じく地元の柘植政浩も中間整備が入って2節目の47号機は出足がバワフル。前回V機の岩瀬裕亮や妹尾忠幸、森悠稀、向所浩二らは地元勢の一角を崩したいところだ。迎えた優勝戦は5人がゼロ台に踏み込むS合戦も、その中でコンマ01の気合Sを決めた是澤が強気の全速戦に出た岩瀬を制して先マイ。BSで先行態勢を築くと、そのままVロードを駆け抜けた。是澤は通算は14回目、地元びわこでは6回目となるV。(クラ)

通算10度目Vの竹井貴史 勝率も自己最高ペース



佳之江



竹井貴史

10/10~15 テイリススポーツ杯争奪2024サザンカップ

1	①	吉田凌太郎 (31)	愛知	①	09	141222231
2	③	河野 主樹 (28)	大阪	③	13	14251311
3	⑤	井上 忠政 (28)	大阪	⑤	18	121231332
4	④	権藤 俊光 (37)	大阪	④	11	531111122
5	⑥	柳内 敬太 (35)	兵庫	⑥	16	21321252
6	②	重木 輝彦 (36)	兵庫	②	11	23325121
①③ 600円(3) ①③⑤ 2300円(10) 逃げ						

10/18~23 三都市対抗戦報知新聞大阪60周年ダイナミック敢闘旗

1	①	竹井 貴史 (33)	福岡	①	11	14211111
2	③	沢田 昭宏 (38)	大阪	③	10	34313331
3	②	森 貴洋 (47)	大阪	②	09	32222221
4	④	若林 将 (40)	東京	④	10	25114312
5	⑤	井上 一輝 (30)	大阪	⑤	07	255331332
6	⑥	新出 浩司 (41)	大阪	⑥	08	22444112
①③ 740円(4) ①③② 2680円(11) 逃げ						

10月10日からは「2024サザンカップ」が開幕。施設改修などを挟んで約1か月半振りの開催となったが、予選道中では地の利を生かした井上忠政、権藤俊光の地元勢が安定感ある走り得点を重ねる。この両者の争いに吉田凌太郎も食らい付くが僅かに及ばず、予選ラストで井上との直接対決を制した権藤が予選をトップで通過。2位に井上、3位に吉田凌が続いて、この3選手が準優の1号艇を獲得。しかし準優では権藤と井上が2着に敗れる結果となり、準優を唯一逃がった吉田凌に優勝戦の1号艇が巡ってきた。優勝戦では準優で金星を挙げた河野主樹が初Vを目指して果敢に仕掛けるも、唯一0台の踏み込みを見せた吉田凌がこれを寄せ付けず。バックでは早くも独走態勢を築くと、そのままゴールラインまで一直線で駆け抜けて完勝。これが当地での初優勝となり、通算では9回目の美酒に酔

いしれた。三都市対抗戦「ダイナミック敢闘旗」は23日に優勝戦が行われた。準優では30万円オーバーの高配当も飛び出したが、1号艇に構えるのはシリーズリーダーの竹井貴史。横一線のスリット隊形から1Mを先マイするとバックでは二の足を利かせて早くも独走態勢を築く。そのまま危なげない内容でVゴールまで駆け抜けた。「最高の仕上がりでした」と今期最終戦を最高の形で締めくくった。これが通算でも10回目の優勝となり二桁の舞台に乗ったが、今期勝率は初の7点オーバーと絶好調だった。「これからも1走1走積み重ねていきたい。それが勝率や上の舞台に繋がる」と抱負を語り、早くも来期を見据えて気持ちを切り替えた。なお、三都市対抗で行われた団体戦は優勝戦に最多の4選手を送り出した地元大阪支部が総合優勝を決めた。(安達弘持)

真骨頂の4カドまくり 藤岡俊介が豪快V!



9/17~21 デイリースポーツ杯争奪第56回琴浦賞競走

1	①	柳沢 一 (43)	愛知	①	19	12232111
2	③	中村 晃朋 (32)	香川	③	15	16312121
3	④	井口 佳典 (47)	三重	④	16	31422322
4	②	新田 泰章 (37)	広島	②	19	13311111
5	⑤	濱崎 誠 (45)	大阪	⑤	12	22314442
6	⑥	市橋 卓士 (45)	徳島	⑥	14	35413312
①③		350円(2)	①③④	880円(4)	逃げ	

9/27~10/2 日本モーターボート選手会代表杯争奪 男女W優勝戦

1	④	藤岡 俊介 (41)	兵庫	④	04	145512432
2	①	吉田慎二郎 (41)	愛知	①	21	312212241
3	③	鶴本 崇文 (39)	大阪	③	16	531134132
4	⑥	西川新太郎 (44)	愛知	⑤	07	25411563
5	⑤	平田 忠則 (47)	福岡	⑥	08	311433523
6	②	和田 拓也 (34)	兵庫	②	16	124651141
④①		2190円(7)	④①③	1390円(42)	まくり	

9/27~10/2 日本モーターボート選手会代表杯争奪 男女W優勝戦

1	③	川野 芽唯 (38)	福岡	③	15	143164122
2	⑤	土屋 千明 (42)	群馬	⑤	11	13251223
3	①	寺田 千恵 (55)	岡山	①	12	313111221
4	④	鎌倉 涼 (35)	大阪	④	15	12323642
5	②	蜂須 瑞生 (33)	群馬	②	15	111533121
6	⑥	水野 望美 (35)	愛知	⑥	18	21414243
③⑤		10090円(18)	③⑤①	19730 (37)	まくり差し	

【琴浦賞競走】初日の選抜戦はV候補筆頭の井口佳典が先陣を切り、初日は3、1着。機力は中堅の域を脱することはなかったが、優出を果たすあたりはさすがだ。選抜組の柳沢一が予選トップ通過。出足型でスムーズさを感じさせた。エース44号機を味方に新田泰章が予選2位と大暴れ。中村晃朋が意地の走りで予選3位。それぞれが優出切符をつかんだ。伸び型に仕上げた濱崎誠はレース復帰後5節目で優出。市橋卓士も柔軟な立ち回りを見せた。優勝戦は風が強まり安定板が装着されたが、柳沢は動じることなく、インから冷静沈着に1Mを先取り。今年3度目、尾崎では2度目、通算66度目のVを飾った。

【男女W優勝戦】男子はエース4号機を味方に吉田慎二郎が突き進み堂々の予選トップ通過。地元のと拓也は予選ラスト連勝で予選2位へ浮上。両者とも危なげのない逃げを放ち優出。鶴本崇文と西川新太郎が奮闘。藤岡俊介と平田忠則は選抜組の意地で優出切符をつかんだ。優勝戦は藤岡が、4カドから内の艇を一網打尽。今年3度目、地元尾崎では8度目、通算27度目のVを飾った。女子は初日の選抜戦こそインからまくりられた寺田千恵が予選道中で立て直して首位。パワフルな蜂須瑞生が予選2位。ともに、力感あふれる走りで優勝戦へ駒を進める。初日選抜戦で寺田を倒した川野芽唯。コーナーワークで勝ち上がった鎌倉涼。レース足は軽快だった土屋千明と水野望美が優出を果たした。優勝戦は川野がセクターから間髪入れずにまくり差しを決めた。今年2度目、尾崎では意外にも初、通算17度目のVを果たした。伸び型で乗り心地に苦労をしていたが「最終日だけ調整が合いました」と、レース足を見事に仕上げ、鮮やかな勝ちっぷりだった。

(日刊スポーツ・北條)

鳴門



当地巧者が本領発揮 松田大志郎が逃げ切った!

6日間で行われたアベックス杯競争はドリウム戦の1号艇に選ばれた松田大志郎が初日連勝でスタートダッシュを決めた。しかし、2日目で連勝は止まり主役日替わりのシリーズとなる。そんな中、ドリウム戦こそ5着だったが、その後は安定感のある走りで成績をまとめた妹尾忠幸が予選1位通過。ドリウム勝ちの松田は2位で続いて鳴門は8連続優出。軽快な機力を武器に戦う関根彰人が3位。準優10、11Rは関根、松田が順当に逃げを決めたのだが波乱は12R。4カドの北野輝季が快ショットを放ち、インの妹尾は立て直しての2着。優勝戦は逆転で絶対枠に入った松田が人気を集め、流れをつかんだ鳴門巧者は強かった。Fハンデを抱えながらも強気に踏み込むと、差し、まくり差して迫る関根、北野を寄せつけずV逃げ決着。

BTS阿波かもじま開設2周年記念競走は男女混合の6日間

6日間開催のスカパー!・JLC杯ルーキーシリーズ第16戦は初日から3連勝で勢いに乗った中島秀治が王道のVを見すえてファイナルの絶対枠に入った。F2ハンデを抱えており不安視もされたが、スリットもピシッと決めて今年3回目のV奪取。機力第一の吉川晴人が6コースから2着に入る大健闘で滋賀勢のワンツー。(報知・田代)

6日間で行われたアベックス杯競争はドリウム戦の1号艇に選ばれた松田大志郎が初日連勝でスタートダッシュを決めた。しかし、2日目で連勝は止まり主役日替わりのシリーズとなる。そんな中、ドリウム戦こそ5着だったが、その後は安定感のある走りで成績をまとめた妹尾忠幸が予選1位通過。ドリウム勝ちの松田は2位で続いて鳴門は8連続優出。軽快な機力を武器に戦う関根彰人が3位。準優10、11Rは関根、松田が順当に逃げを決めたのだが波乱は12R。4カドの北野輝季が快ショットを放ち、インの妹尾は立て直しての2着。優勝戦は逆転で絶対枠に入った松田が人気を集め、流れをつかんだ鳴門巧者は強かった。Fハンデを抱えながらも強気に踏み込むと、差し、まくり差して迫る関根、北野を寄せつけずV逃げ決着。

9/24~29 アベックス杯競走

1	①	松田大志郎 (36)	福岡	①	03	112244121
2	②	関根 彰人 (40)	埼玉	②	03	12116231
3	④	妹尾 忠幸 (44)	岡山	④	02	152231132
4	⑤	田中 辰彦 (38)	広島	⑤	05	421134122
5	③	北野 輝季 (35)	愛知	③	05	261532311
6	⑥	伊藤 将吉 (46)	静岡	⑥	11	213362212
①②		440円(3)	①②④	1190円(5)	逃げ	

10/7~12 BTS阿波かもじま開設2周年記念競走

1	③	片岡 秀樹 (42)	徳島	③	07	312433211
2	⑤	吉川 喜継 (43)	滋賀	⑤	11	331242322
3	④	竹田 吉行 (39)	徳島	④	07	334111312
4	①	村岡 賢人 (34)	岡山	①	04	121413131
5	②	末永 和也 (25)	佐賀	②	04	411352141
6	⑥	西橋 奈未 (28)	福岡	⑥	14	542115122
③⑤		16400円(29)	③⑤④	83280円(106)	まくり	

10/17~22 スカパー!JLC杯ルーキーシリーズ第16戦

1	①	中島 秀治 (28)	滋賀	①	11	111312121
2	⑥	吉川 晴人 (21)	滋賀	⑥	09	541142622
3	②	高井 雄基 (28)	愛知	②	11	253212131
4	④	垂水 悠 (22)	徳島	④	07	262134352
5	③	飛田 江己 (23)	埼玉	③	19	416132141
6	⑤	廣瀬 凜 (21)	滋賀	⑤	17	432332332
①⑥		3760円(13)	①⑥②	13740円(50)	逃げ	

まるがめ



愛娘こころの水神祭に触発!? 三寫誠司がジカまくりV

9月26日からの「マンスリーBOAT RACE杯」は新エンジン一発目のシリーズ。初日ドリーム戦は地元の中田元泰がインから逃げ切つて快勝、そのままシリーズリーダーの座を担ったが、準優1Rのイン戦で3着に敗れ優出ならず。準優1枠トリオで唯一勝ち上がった後藤正宗が最後までインからトップスタートを決めて逃げ切り勝ち、今年初優勝を飾った。

10月5日からの「四国新聞社杯」は5日間シリーズの準優制、男女混合戦で行われた。初日ドリーム戦は1枠シードとなった守屋美穂がイン鋭発を決めて完勝。その守屋を押さえて予選トップ通過を決めたのは前田篤哉だ。「回つてからの加速がすごい」と抜群のレース足で準優も優勝も逃げ切つて王道Vを完成。今年4回目、ブルーナイトは初めての優勝だった。

香川支部にうれしいニュースが飛び込んできた。96期の宮崎獎が9月25日の三国優勝戦をインから逃げ切つて、デビュー19年4か月、通算57度目の優出で悲願の初Vを成し遂げた。10月15日の住之江8Rでは132期の三寫こころが5コースからまくり差しを決めて、デビュー222走目で待望の水神祭を飾った。

10月12日からの「第14回琴参バスケット」はGⅢの企業杯。初日ドリーム戦は三寫誠司が地元の意地をみせてイン快勝。節間に愛娘・こころのデビュー初勝利のニュースも舞い込み、さらに気合が入っていたか。優勝戦1枠は上田龍星に譲ったが、2コースからイン上田をネジ伏せる鮮やかなジカまくり。2着に坪口竜也、3着に浜先真範で3連単は14万1710円の大波乱決着となった。

9/26~30 マンスリーBOAT RACE杯

1	①	後藤 正宗 (46)	静岡	①	11	21221431
2	⑥	杉山 正樹 (45)	愛知	⑥	14	33126132
3	⑤	江夏 満 (44)	福岡	⑤	12	21331122
4	③	東本 勝利 (44)	三重	③	15	55312611
5	②	秋山 直之 (45)	群馬	②	15	11513321
6	④	原村 拓也 (33)	香川	④	12	12213332
①⑥ 1980円(6) ①⑥⑤ 10520円(30) 逃げ						

10/5~9 四国新聞社杯

1	①	前田 篤哉 (27)	愛知	①	11	24112151
2	③	森野 正弘 (39)	山口	③	13	16411622
3	⑥	和田 操拓 (40)	滋賀	⑥	18	11333333
4	④	澤田 尚也 (25)	滋賀	④	08	52112122
5	②	守屋 美穂 (35)	岡山	②	18	61131231
6	⑤	武重 雄介 (40)	山口	⑤	14	1136162
①③ 370円(2) ①③⑥ 3340円(13) 逃げ						

10/12~17 第14回琴参バスケット

1	②	三寫 誠司 (56)	香川	②	14	31231551
2	⑤	坪口 竜也 (35)	長崎	⑤	16	53313222
3	④	浜先 真範 (31)	広島	④	21	2331344転2
4	③	吉田 裕平 (27)	愛知	③	06	152311411
5	⑥	笠置 博之 (34)	大阪	⑥	19	124324222
6	①	上田 龍星 (29)	大阪	①	14	311141111
②⑤ 11210円(15) ②⑤④ 141710円(91) まくり						

ドリーム制した宇野弥生 最後までトップSで圧倒V



児島

9/24~29 オールレディース第36回瀬戸の女王決定戦

1	①	宇野 弥生 (38)	愛知	①	09	113114151
2	②	平高 奈菜 (37)	香川	②	10	121231321
3	⑤	富樫 麗加 (34)	東京	⑤	17	216141332
4	③	平山 智加 (39)	香川	③	11	222332141
5	④	田口 節子 (43)	岡山	④	14	341154152
6	⑥	藤田 美代 (53)	福岡	⑥	18	512315222
①② 290円(1) ①②⑤ 1870円(7) 逃げ						

10/4~9 第13回住信SBIネット銀行賞

1	①	木村 仁紀 (32)	滋賀	①	04	141211131
2	②	海野康志郎 (36)	山口	②	06	213232231
3	④	金田 諭 (45)	埼玉	④	17	565211122
4	③	森 智也 (35)	兵庫	③	09	342533231
5	⑥	山本 修一 (44)	岡山	⑥	18	632611432
6	⑤	中村 日向 (25)	香川	⑤	19	312365112
①② 210円(1) ①②④ 580円(1) 逃げ						

10/13~18 創刊75周年記念日刊スポーツ杯・ニッカンコム杯

1	④	佐藤 大佑 (34)	東京	⑤	10	111143412
2	①	池永 太 (39)	福岡	①	08	232111331
3	③	藤原啓史朗 (34)	岡山	④	09	112135121
4	⑥	野村 誠 (38)	群馬	⑥	11	332322312
5	②	上條 暢嵩 (30)	大阪	②	14	351211121
6	⑤	神田 聖也 (36)	福岡	③	08	221223412
④① 2340円(7) ④①③ 10850円(28) 抜き						

9月は改修工事のため、1節のみの開催となった。「GⅢオールレディース マンスリーBOAT RACE杯」争奪 第36回瀬戸の女王決定戦が行われた。初日のドリーム戦の主役は1号艇の守屋美穂だが、5号艇の宇野弥生がコンマ07のスタートからまくり差し快勝。守屋、廣中智紗衣が2Mで接触して転覆。それを避けられなかった数内瑞希も転覆して波乱の結果となった。その後も宇野がシリーズを引っ張り予選トップ通過。2位は平高奈菜、3位は平山智加が準優勝戦の1号艇。3人ともイン快勝で優出を果たした。宇野は最後までインから1人コンマ09のトップスタートから押し切り圧倒した。今年3回目、通算22回目の優勝を飾った。

10月1節目は「第13回住信SBIネット銀行賞」は、初日の選抜戦1号艇に座る海野康志郎が主役だ。初日2、1着の好発進を決めたが、木村仁紀が予選は7戦5勝でトップ通過。海野は2位。吉田一郎が3位となった。準優勝戦は10Rで吉田、入海馨の2人がフライングとなり離脱。恵まれた森智也、中村日向が浮上した。海野、木村はインから逃げて優出。木村は最後までイン速攻で快勝。今年初、通算5回目の優勝を飾った。

現行エンジンラストVは金子拓矢



宮島



金子拓矢



北川幸典

9/20~25 BTS尾道開設4周年第45回報知エキサイトカップ

1	①	金子 拓矢 (40)	群馬	①	21	112221211
2	③	高野 哲史 (35)	兵庫	③	25	153124111
3	⑤	平石 和男 (58)	埼玉	⑤	27	231422322
4	②	北山 康介 (34)	東京	②	23	132214251
5	④	尾嶋 一広 (37)	兵庫	④	24	321143132
6	⑥	後藤 隼之 (36)	東京	⑥	26	242223262
①③		340円(2)	①③⑤	1660円(7)	逃げ	

1年間通して使われてきたエンジンの使い納めとなった9月20日からの「BTS尾道開設4周年記念報知エキサイトカップ」は金子拓矢の優勝で幕を閉じた。

終わってみれば節間10走してオール2連対での優勝。圧巻のVロードを振り返ると初戦の4号艇を4カドから差し抜けて白星奪取。後半の12Rドリム戦は1号艇インの桐生順平がSで立ち遅れたところをジカでまくり、内を差し抜けてきた尾嶋一広を2Mで差し返して快勝。これで初日連勝発進とした。

その後も勢いそのままにポイントを加算。結果、予選は7戦3勝のオール2連対で得点率9・43と断トツの首位通過とした。行き足を中心に軽快な足色に仕立てていた16号艇を相棒に、準優勝戦と優勝戦の好枠インも危なげなくしっかりと押し切り今年は2回目、当地も2度目となる優勝を果たした。

（BR宮島専属記者・宮崎経督）

一方で今年のエンジン相場で盛り上げてくれた28号機はこの大会が約4か月の負傷欠場明けだった地元北川幸典が獲得。序盤はまだ本調子を欠いていたが、レース感を取り戻した3日目からは3連勝し予選を7位で通過と底力の健在ぶりを猛アピールしていた。

6月の当地GI周年記念で片岡雅裕が初日にシャフトを交換してから見違える足色になった28号機。片岡自身もその大会で優出3着と好レースを展開していたが、それ以降も乗り手を選ばずトータルバランスに優れたエース機として君臨。最終的に年間を通して28号機は9優出のV4とトップの数字を叩き出した。次世代エンジンではどんなドラマが待っているのか？ 今から待ち遠しい。

徳山



意外にも今年初V 王道を歩んだ田口節子

開幕後もこの両者は好調だったが、最も注目を集めたのが角ひとみ。抜群のビット離れでコースを奪うシーンなども披露して水面を盛り上げた。その他、初日のドリム戦を制した田口節子も気配が良く、初日連勝発

進と開幕ダッシュに成功。そのまま予選をオール3連対で駆け抜け首位突破。準優、優勝戦でも逃げ切ったV。意外にもこれが今年初Vだった。「しばらく優勝していなくて焦りもあったけど、今節はエンジンも良かったし落ち着いてレースに挑みました。年末に向けて大きいレースが続くのでこの優勝をきっかけにしたい」と復活Vにホッとした表情だった。

進と開幕ダッシュに成功。そのまま予選をオール3連対で駆け抜け首位突破。準優、優勝戦でも逃げ切ったV。意外にもこれが今年初Vだった。「しばらく優勝していなくて焦りもあったけど、今節はエンジンも良かったし落ち着いてレースに挑みました。年末に向けて大きいレースが続くのでこの優勝をきっかけにしたい」と復活Vにホッとした表情だった。

準Vは實森美祐。優勝戦は2枠だったが、3枠角がビット離れで2コースを奪ったため、實森は3コースに。角がスタートで凹んだため實森は外マイ。角も2コースから差して粘ったが、實森が2着で、角が3着。師弟コンビによる争いは弟子の實森に軍配が上がった。4着は前回の当地ヴィーナズシリーズから連覇を狙った佐々木裕美。5着廣中智紗衣。好調だった魚谷香織が6着だった。

（日刊・測上）



田口節子



實森美祐

10/6~11 日刊スポーツ杯争奪徳山オールレディース

1	①	田口 節子 (43)	岡山	①	12	1121312121
2	②	實森 美祐 (28)	広島	③	12	2112132231
3	③	角 ひとみ (56)	広島	②	16	32343111
4	④	佐々木裕美 (45)	山口	④	12	1314351212
5	⑥	廣中智紗衣 (43)	東京	⑥	15	6225351112
6	⑤	魚谷 香織 (39)	福岡	⑤	16	1615116322
①②		230円(1)	①②③	730円(2)	逃げ	

下関



5年5か月ぶりの当地参戦 金田諭が危なげなく逃げ切った

9月20日に開幕した「スポニチ金杯争奪戦」の6日間シリーズは優勝候補筆頭の湯川浩司が初戦にコンマ07の非常識Fを切り早々に戦線離脱してしまった。当地連続優勝を目指していた海野康志郎もなかなかリズムが上がらない状況が続き、シリーズは混迷を極めた。そんな中で予選をトップ通過したのが当地は約5年5か月ぶりとう久しぶりの参戦だった金田諭。序盤は「Sが決まらない」と低調だった機力を整備で着実に向上かせ上位クラスに仕上げた。優勝戦では4コースカドから真庭明志が握って攻めるも、これをしっかりと受け止めて、昨年10月の桐生以来、通算44回目の優勝を達成した。

10月3日に開幕した「BTS山口あじすオープン13周年記念」の5日間シリーズは今年7月の大村オーシャンカップで約10年ぶりとなるSG制覇を成し遂げた茅原悠紀が圧倒的なスピードを見せつけて予選をトップ通過。ただ、F2の身というところもあり、他の選手にはまだまだ付け入る隙があった。準優勝戦では同じくF2の柴田光が前付けに出て深い起こし位置となつてしまい、Sもコンマ26で後手に回って3着惜敗。代わって優勝戦1枠に収まったのが上野真之介。「チャンレンジカップに出るのが目標」と賞金アップへ並々ならぬ闘志を見せてイン逃げ快勝。今年5回目、通算35回目の美酒に酔った。

10月16日に開幕した「MNB R下関8thBTSながと4周年記念新東通信杯」の4日間シリーズは渡邊和将が初戦に6コースまくりの大技を披露し波に乗ると予選をトップ通過。準優も順当に逃げてV戦1枠を獲得すると、安定板が使用され2周レースとなった本番も悪天候をものともせず押し切つて通算30回目のVを達成した。

(西日本スポーツ・岡部)

9/20~25 スポニチ金杯争奪戦

1	①	金田 諭 (45)	埼玉	①	15	143111131
2	⑥	中嶋健一郎 (35)	三重	⑥	11	342612152
3	②	海野康志郎 (36)	山口	②	16	153111541
4	④	真庭 明志 (40)	長崎	④	14	113323312
5	⑤	長野 道臣 (51)	静岡	⑤	22	313241222
6	③	松井 洪弥 (31)	三重	③	18	361112141
①⑥ 2740円(7) ①⑥② 8790円(25) 逃げ						

10/3~7 BTS山口あじすオープン13周年記念

1	①	上野真之介 (36)	佐賀	①	08	26211451
2	③	宇留田翔平 (27)	三重	③	12	1253211
3	④	柳生 泰二 (39)	山口	④	13	43112132
4	⑥	茅原 悠紀 (37)	岡山	⑥	17	11211443
5	⑤	平高 奈菜 (37)	香川	⑤	12	1532142
6	②	中村 有裕 (45)	滋賀	②	12	1413531
①③ 360円(1) ①③④ 1200円(2) 逃げ						

10/16~19 MNB R下関8thBTSながと4周年記念新東通信杯

1	①	渡邊 和将 (34)	岡山	①	10	124141
2	⑤	宇佐見 淳 (43)	愛知	⑤	16	141342
3	③	片橋 幸貴 (36)	滋賀	③	17	213431
4	④	篠崎 仁志 (36)	福岡	④	21	214212
5	②	原田 篤志 (44)	山口	②	16	152141
6	⑥	末永 祐輝 (37)	山口	⑥	12	124332
①⑤ 1570円(5) ①⑤③ 5760円(18) 逃げ						

ひと味違う西山貴浩 GPヘラストスタート!



若松



西山貴浩がついに悲願の周年記念制覇を成し遂げた。予選トップからの王道優勝という文句なしの内容で。グランプリ出場へ向け勝負駆けという状況の中の価値ある優勝でもあり、これでグランプリ出場もほぼ濃厚になった。

今年の西山はひと味違う...と筆者は年頭から感じていた。思い出してほしいのは1月下旬周年の準優勝戦と2月芦屋九州地区選の初日ドリム戦。どちらも5コースからの鋭いまくり差し。下関では予選トップだったインの瓜生正義を破り、芦屋はインがエース機で超抜の峰竜太だったので2着止まりだったが、これまであまり披露したことがなかったまくり差しを自分のものにしていった。

西山に話を聞くと、まくり差しを会得するため馬場貴也らに指導を受けつつ、ハンドルの高さなどを変えたことによりしつくり来るようになったとか。西山が見かけによらず、日頃から努力、研究を怠らない選手であることは今やファンにも広く知れ渡っていると思うが、その成果が今年は明らかに始めている。

また、一時は極端に悪かったエンジン抽選運も今年は全然悪くない。周年まで今年は4回若松を走っていたが、正月戦とGW戦は前節の優勝エンジン、7月はセット交換による上昇機、お盆戦は一時2連対率が1位だった上位機とむしろ抽選運は抜群レベル。何よりも近況はペラが間違いない当たっている。周年は今年の若松の中では一番悪いエンジンを引いてしまったが、出足だけはしっかり仕上げていた。

若松では来年、3月にクラシック、8月にはメモリアルと2回もSGが開催される。次なる悲願達成へ向け、いい流れで地元SGを迎えられそうだ。

(スポーツ報知・井上誠之)

1 ② 山川美由紀 (57) 香川	② 17 223113331
2 ① 寺田 千恵 (55) 岡山	① 11 1513211121
3 ④ 藤崎小百合 (41) 福岡	④ 05 21242132
4 ⑤ 赤井 睦 (35) 徳島	⑤ 09 33512452
5 ⑥ 平田さやか (40) 東京	⑥ 07 335261412
6 ③ 滝川真由子 (36) 長崎	③ 19 552322211
②① 1120円(4) ②①④ 3610円(13) 差し	

9/27~30 PayPay銀行賞

1 ② 林 美憲 (49) 徳島	③ 06 141431
2 ④ 大庭 元明 (54) 福岡	⑤ 17 213222
3 ⑥ 西島 義則 (62) 広島	② 13 461112
4 ⑤ 三宅 潤 (39) 大阪	⑥ 21 421212
5 ③ 石橋 道友 (42) 長崎	④ 13 435121
6 ① 三苫 晃幸 (38) 福岡	① 12 121221
②④ 1440円(8) ②④⑥ 6740円(29) まくり	

10/12~16 ニッカン・コム杯

1 ① 大池 佑来 (37) 東京	① 11 2621121
2 ③ 岡村 慶太 (36) 福岡	③ 12 4112611
3 ② 三浦 敬太 (37) 東京	② 04 1161241
4 ④ 北村 征嗣 (45) 大阪	④ 14 3242142
5 ⑤ 石田 政吾 (53) 福井	⑤ 13 1131612
6 ⑥ 山一 鉄也 (57) 福岡	⑥ 17 4413312
①③ 240円(1) ①③② 800円(2) 逃げ	

10/19~22 DMMボートちゃんねる杯

1 ③ 菊池 峰晴 (56) 群馬	③ 07 31541
2 ④ 若狭奈美子 (36) 岡山	④ 11 13222
3 ① 石丸 海渡 (31) 香川	① 14 321111
4 ⑥ 島川 光男 (59) 広島	⑥ 08 442122
5 ② 吉川 昭男 (51) 滋賀	② 13 12251
6 ⑤ 秋元 哲 (35) 埼玉	⑤ 06 233312
③④ 7030円(11) ③④① 37540円(42) まくり	

久々Vから間髪入れず 山川美由紀が2節連続V



芦屋

4日間のシヨートシリーズ「PayPay銀行賞」は9月30日が最終日。優勝戦は西島義則が6号艇で乗ったことで、進入から波乱の気配が漂っていた。1号艇の三苫晃幸は「深くならずもインからSだけは行きますよ」の宣言通りにコンマ12のSを決めたが、前検から伸び型にした2号艇の林美憲が西島の前付けを入れて3カドからコンマ06のトップSからまくり一撃で決着した。林はなんと節間の平均Sもコンマ06。脅威のS力と

伸び型仕上げは相性抜群で、破壊力も倍増だった。10月初旬はしばらく開催がなく、16日が最終日の「ニッカン・コム杯」が一節目。優勝したのは大池佑来。予選トップ通過の江口晃生が準優3着に沈んだことで転がり込んできた1号艇のチャンスをしつかりとモノにした。Fをした直後のシリーズだったこともあり、初日はインで2着、ドリームは6着と苦しい立ち上がりだったが、そこからはオール2連対。通算32回目の優勝を飾った。「DMMボートちゃんねる杯」は、最終日22日の最終12Rで優勝が行われた。6号艇の準備で19万舟を演出した菊池峰晴が、最後は3カドに持ち出し連日のまくり強攻。19万とは行かずとも、3連単は3万舟で連日の万舟決着。2018年7月の桐生以来となる、6年ぶりの優勝を豪快につかみ取った。(スポーツ報知・井上)

9月23日が最終日の「ヴィーナスシリーズ第13戦 スポニチ杯」は、好素性機で序盤からハイパワーだった寺田千恵が得点率争いをリードし、予選トップ通過から優勝戦1号艇を獲得した。ただ、最後に笑ったのは山川美由紀。混戦を抜け出して、前節の大村で5年8か月ぶりの優勝を飾ったばかりで連続優勝。大村でも寺田の1号艇を撃破しての優勝だった。



Vラッシュの永田啓二 10年9か月ぶりの地元V

10年9か月ぶりとなる当地制覇の喜びを嘯みしめた。10月12日に開幕した「公営レーシングプレス杯」は予選トップ通過から王道を歩んだ永田啓二が14年1月の正月シリーズ以来、2回目の福岡V。「次節のことは考えず、スタートはきっちり行きたい」という宣言通り、コンマ01の強烈な踏み込みで他5艇の攻めを封じた。「ダービーに出られたことよりも、博多で優勝できたことがうれしい」と控えめながらも喜びの大きさが伝わるコメント。続く大舞台にもこれ以上ない弾みがついたはず。待望のSGデビュー節となる戸田ダービーは、果たしてどんな結末を迎えているだろうか。

10月3日に開幕した「東京・大阪・福岡三都市対抗戦 福岡J・アンクラス杯」は恒例の3支部によるバトル。優勝戦1号艇を手にしたのは渡辺浩司。軽快な出足を武器に予選首位通過を果たし、通算7回目の当地制

覇に王手を懸けたが、待ったをかけたのは2号艇の湯川浩司。渡辺のターンが少し流れた隙を逃さず、力感たっぷり差しハドルでバック併走。そのまま2Mを先取り、13年8月以来、通算3回目の当地制覇。「差し切るの難しいかなと思っていただけ、今日は仕上がっていった」とニッコリ。今シリーズ前に生まれて初めて金色に髪を染めたそう。さっそくその効果あり!? なお、団体戦も大阪支部が勝利した。

9月24日開幕の「auじぶん銀行賞」は3コースまくりを放った和田兼輔が1周2Mの混戦をさばいて当地初制覇。「ついででしたね。苦手なイメージが強かったけど、次は違うイメージで来ることができそうです」と苦手水面克服をファンの前で宣言し、大きな歓声を浴びた。(スポニチ・鳥飼)

9/24~29 auじぶん銀行賞

1 ③ 和田 兼輔 (37) 兵庫	③ 11 14122331
2 ④ 作間 章 (45) 東京	④ 09 321116212
3 ① 渡邊雄一郎 (38) 大阪	① 13 132112251
4 ② 武田 光史 (51) 福井	② 13 123161151
5 ⑤ 柳内 敬太 (35) 兵庫	⑤ 13 431431112
6 ⑥ 澤 大介 (52) 三重	⑥ 11 215312542
③④ 3440円(9) ③④① 6970円(20) 抜き	

10/3~8 東京・大阪・福岡三都市対抗戦 福岡J・アンクラス杯

1 ② 湯川 浩司 (45) 大阪	② 17 122411411
2 ① 渡辺 浩司 (40) 福岡	① 15 11112151
3 ④ 杉山 貴博 (44) 東京	④ 19 33112342
4 ③ 三角 哲男 (57) 東京	③ 16 53211221
5 ⑥ 馬野 耀 (30) 大阪	⑤ 14 43621112
6 ⑤ 福田 宗平 (34) 大阪	⑥ 23 132343232
②① 820円(4) ②①④ 2820円(11) 差し	

10/12~17 公営レーシングプレス杯

1 ① 永田 啓二 (40) 福岡	① 01 122111221
2 ⑥ 西村 拓也 (37) 大阪	⑤ 07 311331612
3 ⑤ 齊藤 仁 (47) 東京	⑥ 06 132221352
4 ③ 宗行 治哉 (27) 広島	③ 05 153412261
5 ④ 中澤 和志 (48) 埼玉	④ 06 212122122
6 ② 谷野 鎌志 (40) 静岡	② 05 442125151
①⑥ 1140円(5) ①⑥⑤ 6230円(21) 逃げ	

からつ



チルト3発動の菅章哉 自己最多の年間V7

9/23~26 第15回虹の松原カップ

1	②	石倉 洋行 (44) 福岡	②	07	222141
2	④	安河内 将 (34) 佐賀	④	01	113442
3	①	中辻 崇人 (47) 福岡	①	18	121151
4	③	島川 海輝 (21) 山口	③	03	41251
5	⑤	遠藤 エミ (36) 滋賀	⑤	03	153142
6	⑥	大賀龍之介 (27) 福岡	⑥	02	52113
②④ 10650円(17) ②④① 19580円(38) 抜き					

9/30~10/5 BTSみやき開設15周年記念

1	①	橋澤 剛治 (47) 静岡	①	14	331121121
2	④	前沢 丈史 (38) 東京	④	10	311122162
3	②	池田 雄祐 (36) 愛知	②	11	111215151
4	⑥	川原 正明 (50) 福岡	⑥	15	51315512
5	③	井本 昌也 (27) 山口	③	11	142211221
6	⑤	大橋純一郎 (43) 静岡	⑤	11	112222142
①④ 580円(3) ①④② 1690円(7) 逃げ					

10/12~14 ファン感謝3Daysポートレースパルトーナメント

1	③	茅原 悠紀 (37) 岡山	③	03	2231
2	②	渋谷 明憲 (38) 大阪	②	02	621
3	⑤	平高 奈菜 (37) 香川	⑤	03	162
4	⑥	萩原 秀人 (45) 福井	⑥	01	441
5	④	海野康志郎 (36) 山口	④	04	1321
F	①	吉川 元浩 (52) 兵庫	F	①	311
③② 1350円(8) ③②⑤ 5150円(30) 恵まれ					

10/19~24 創刊75周年記念日刊スポーツ杯

1	④	菅 章哉 (36) 徳島	⑥	02	331211122
2	①	林 美憲 (49) 徳島	①	07	222111111
3	⑤	渡邊 雄朗 (38) 東京	④	05	351133442
4	②	常住 蓮 (23) 佐賀	②	08	341122111
5	③	杉山 勝匡 (35) 佐賀	③	08	53221631
6	⑥	服部 幸男 (53) 静岡	⑤	07	365112342
④① 770円(2) ④①⑤ 2920円(9) まくり					

「第15回虹の松原カップ」は新エンジン導入3節目。江戸川マスタリーグで今年8回目の優勝を飾った中辻崇人が快速仕立てで予選を首位通過。

優勝戦で1号艇獲得の中辻は機力完調とあって、今年9Vが濃厚かと思われた。ところが、人気の中辻はインから少し遅れ気味のスタートになり、3カドから島川海輝がまくりを狙う。仕掛けた島川とインから応戦の両者がやり合う間に、石倉洋行と安河内将が差して先頭争いへ。勝負所の1周2マークは、

出足好感触の石倉が先マイの安河内を差し返して、6月の一般戦に続く唐津2連覇を達成した。

「BTSみやき開設15周年記念」の優勝戦は、横澤剛治が池田雄祐の2コースまくり、前沢丈史の差しも許さずイン逃げ。昨年9月7日の江戸川一般戦以来、通算62回目の優勝を決めた。「ファン感謝3Daysポルトーナメント」の優勝戦は3億175万5800円を売り上げていたが、Fで2億7609万7900円が返還となった。優勝した茅原はF2本目の休みが未消化で「F3だと」150日の休みが待っていると思うと。毎レース神経をすり減らしながらで、本当に疲れます」と語った。

「創刊75周年記念 日刊スポーツ杯」は、最終日の9Rで逃げを決めた石田章央が通算1500勝(史上530人目)を達成した。優勝戦はチルト3を選択した菅章哉(4号艇)が大きくマくりで圧倒。年間自己最多となる7Vを決めた。

(報知 高木)

すっきり勝った！ 須藤博倫が3年ぶり“逃げ”V



9/22~26 創刊70周年記念中日スポーツ賞

1	①	中越 博紀 (40) 香川	①	10	1233161
2	③	西岡 顕心 (23) 香川	③	08	1432231
3	⑤	永田 啓二 (40) 福岡	⑤	07	11353152
4	⑥	後藤 盛也 (35) 東京	⑥	11	12424122
5	②	山口 裕二 (45) 長崎	②	14	14412451
6	④	本村 大 (25) 長崎	④	03	612142
①③ 320円(1) ①③⑤ 900円(2) 逃げ					

9/29~10/4 スポーツニッポン杯

1	①	須藤 博倫 (46) 埼玉	①	06	21214121
2	⑥	麻生 慎介 (39) 広島	⑥	12	1512312
3	②	香川 素子 (47) 滋賀	②	04	253112141
4	⑤	近江 翔吾 (31) 香川	⑤	08	33321532
5	③	金子 賢志 (33) 群馬	③	06	31531461
6	④	野中 一平 (29) 愛知	④	06	242414622
①⑥ 2770円(7) ①⑥② 11110円(28) 逃げ					

10/8~14 スポーツ報知杯

1	①	松村 敏 (41) 福岡	①	11	1131153111
2	③	服部 幸男 (53) 静岡	③	14	1541216111
3	⑥	尾上 雅也 (29) 埼玉	⑥	19	2162141412
4	④	前田 聖文 (36) 愛知	④	18	1622312112
5	②	大塚 豊 (41) 山口	②	19	1343114121
6	⑤	荒井 輝年 (50) 岡山	⑤	24	2213143222
①③ 410円(3) ①③⑥ 3320円(13) 逃げ					

「9月22〜26日」準優は予選3位だった山口裕二とトップの中越博紀は1着だったものの、2位の松崎祐太郎は3着。すこかったのが当地初登場の西岡顕心だ。準優は決まり手こそ1周2M逆転の「抜き」だったが、1Mは全速ツケマイ。「F休みの間に3コースまくりを練習していたんです。それがこんなにはまるとは」と照れ笑い。優勝戦は中越がインから押し切って大村では3度目のV。2着には西岡が入って香川支部でのワンツーとなった。最終2Mで永田啓二が大逆転で3着に。

「9月29〜10月4日」初日12Rは4コースから仕掛けた里岡右貴がFで脱落。須藤博倫が3コースまくり差して抜け出した。その須藤はリズム良く、予選をトップで通過した。準優は須藤と予選3位だった香川素子は1着だったものの、進入から乱れた10Rでは1、2号艇の野口勝弘と武富智亮がF。金子賢志と前

付けに動いた6号艇の麻生慎介が優出した。優勝戦は枠なりだが、金子が3カド。それでも須藤はスタートをしっかりと決めて逃げ切った。優勝は昨年8月戸田以来だが、「前2回が恵まれだったんですよ。逃げて勝ったのは3年ぶり(21年8月住之江)」と喜んだ。

「10月8〜14日」3日目終了時点で2位だった木下翔太が、4日目前半レースで落水して途中帰郷。予選1位は松村敏、2位は大塚豊だった。7日制で準優進出戦と準優はいずれも1号艇が期待に依って本命で決まった。優勝戦も松村がインから11のトップスタートを決めて圧勝。と思いきや、「ターンをする時に右手がハンドルから離れて焦りました」と本当はヒヤッとした勝利だったらしい。また、シリズルの5日目には、服部幸男が史上27人目となる通算26000勝を達成した。(報知・長谷)